日向市立地適正化計画のストーリー（案）

主要課題

【人口構造】

○高齢者・子育て世代など、生活弱者に配慮したまちづくり施策が必要
○若者が生活しやすい活気のあるまちづくり施策が必要
○市街地のコンパクト化による生活環境の維持が必要

【産業構造】

○第１次産業と関わる基幹産業の更なる高度化が必要
○中心市街地等における空き店舗対策が必要

【土地利用（空地や空き家の状況）】

○中心部などで活性化に資する空地の有効活用策の検討が必要
○郊外部の空き家対策の推進が必要

【交通】

○骨格道路の交通容量増加やネットワーク強化が必要
○バスの運行本数の増加など、バス交通の機能強化が必要
○公共交通の利用がしやすいコンパクト・プラス・ネットワークに向けた施策検討が必要

【都市機能立地状況】

○日向市駅周辺に時間消費型の商業・交流・サービス空間の整備（ハード、ソフト）が必要
○市役所周辺への公共施設の充実や、災害対策のための代替機能の強化が必要

【地価水準・面整備】

○駅周辺の土地の高度利用の推進が必要
○面的整備地区への人口誘導（居住誘導）策が必要

【自然災害・防災】

○津波浸水対策と市街地縁辺部の土砂災害対策の両面の対策が必要

【居住誘導区域指定のための条件等の検討】

○市街化区域のほとんどが津波浸水区域にあり、津波避難場所の確保や避難ルートの整備が必要

【類似都市比較による都市構造の評価】

○商業・サービス業の広域的拠点性を活かしたまちづくりが必要
○自動車交通の安全性対策や公共交通への転換に向けた施策が必要

まちづくりの方針（ストーリー）

【都市構造の方向】

【都市構造の方向】
■日向市駅周辺を中心とする賑わいのある中心拠点の形成
■地域特性や住民の安心な暮らしに配慮した生活拠点の形成

①広域拠点や生活拠点の特性に応じた魅力の向上

【都市構造の方向】
■DID 地区などを基本とした市街地のコンパクト化
■土砂災害危険個所等への居住誘導を制限
■津波浸水区域内の防災対策の強化、避難場所等の充実

②高齢者等が暮らしやすく、災害に強い暮らしの実現

【都市構造の方向】
■幹線交通軸や環状道路を中心としたネットワークの形成
■交通弱者の生活支援に資する多様な交通・生活サービスの形成

③広域的な連携や地域間の交流によるネットワーク型都市構造への転換

（仮）広域的な拠点性を伸ばす　市民の安全性を守る　住み続けられるまちの実現

【まちづくりの方針（ストーリー）】

【方針①】
日向市駅周辺のポテンシャルを活かした活性化と若者世代の定住

【方針②】
市民が安全に安心して暮らすことができる居住環境づくり

【方針③】
市街地と集落をつなぐ交通ネットワークと他分野と連携した生活サービス支援

誘導方針

【都市機能誘導の方針】

◆日向市駅周辺における市民の定住・交流に資する重点的な都市機能の誘導

≪拠点の位置づけ案≫
■日向市駅周辺地区

◆地域特性や課題に応じた地域住民の生活に資する都市機能の誘導（※検討）

≪拠点の位置づけ案≫
■財光寺駅周辺地区

■南日向駅周辺地区

■日知屋地区

◆将来の安全性を見据えた段階的な都市機能の誘導（※検討）

■大王谷運動公園周辺地区

【居住誘導の方針】

◆拠点を中心とした生活利便性・交通利便性が高い地域への居住誘導

≪居住誘導区域に含める条件案≫
■鉄道駅や主要施設を中心に拠点を形成する区域
■人口が集積し、生活・交通利便性が高い区域

◆土砂災害等の危険性が高い地域や居住環境の悪化につながる地域の居住抑制と市街地の安全性の確保

≪居住誘導区域に含める条件案≫
■災害からの安全性が確保できる区域

≪居住誘導区域に含めない条件案≫
■災害危険性が高い区域
■工場が立地し、住環境との分離・共生を図る区域

目標指標

«官民連携による都市機能の誘導»

«取組みイメージ»
・図書館や医療施設など生活・文化交流機能の誘導
・官民連携による健康・運動施設の整備
・生活拠点の商業・医療・コミュニティ機能の維持
・災害危険性が少ない高台への防災拠点の形成
・空地等の有効活用　等

«居住誘導区域人口の維持»

«取組みイメージ»
・土地区画整理事業による安全な居住地の形成
・居住誘導区域内の安全性・利便性の確保
・バス路線沿線への緩やかな居住誘導
・津波避難タワーや津波避難ビルによる避難場所の確保
・避難ルートの整備・周知　等

«公共交通利用者数の確保»

«取組みイメージ»
・地域公共交通網形成計画との連携による広域ネットワークの形成
・公共交通の利用による環境負荷の軽減
・歩いても暮らせるまちづくりによる市民の健康増進
・福祉サービスや生活支援サービスとの連携による高齢者等への生活支援　等